

文部省科学研究費「水文学」, 特定研究業績報告, 5-32.

奥田 穰, 1970: 日本における大雨の気候学的研究, Papers in Met. and Geophys., 21, 323-379.

榊原 均, 武田喬男, 1973: Modification of typhoon rainfall by orographic effect, J. Met. Soc. Japan, 51, 155-167.

武田喬男, 1974: 集中豪雨の降水特性と微物理学的

過程, 気象研究ノート, 120, 81-95.

——, 森山憲昭, 岩坂泰信, 1976: A case study of heavy rain in Owase area, J. Met. Soc. Japan, 54, 32-41.

柳沢善次, 青柳二郎, 神林慶子, 1974: 尾鷲付近の降雨域構造のレーダ解析, Papers in Met. and Geophys. 25, 51-80.



天気科学

駒林 誠 編

朝日小事典, 1976, 変形新書版, 254頁, 980円.

気象についての大へんユニークな本が出版されたので, ここに広く学会員に紹介しておきたい. この本の特徴として, 次の諸点をあげることができる.

(1) 小事典型式であること. 体系的に章節をたてて「天気科学」を記述したのではなく, 156の大・中・小項目を選び, 五十音に並べて, それぞれの項目の専門家が解説している. 大項目は4ページ, 中項目は2ページ, 小項目は1ページ程度で, いずれもページの初めで始まり, 末で終わるようになっている. 最初から読む必要はなく, 開けたページから読める. この本は, 言葉の意味を知るために「引く辞書」ではなく, ある事柄についての本質を知るための「読む事典」といえる. 巻末に

詳細な牽引が付けられている.

(2) 項目の選び方がユニークなこと. たとえば第1ページに「青空」があり, 次に「朝・昼・夜の気象」とつづく. 「気象教育」「雨と雲の帯状構造」「マスコミと気象」「酸素大気と生物の進化」「積雲対流の観測」「積雲対流の理論」「パラメタリゼーション」「大気エネルギー」「大気波動」などの項目もある.

(3) 執筆者が, それぞれの専門分野のエキスパートであること. 編著者は駒林誠(現大阪管区気象台技術部長), 著者は河村武(気象研究所応用研究部室長), 齋藤実(神戸海洋気象台海洋課長), 廣田勇(京都大学助教授), 矢花和一(気象大学校教授), 高津真也(朝日新聞出版局)の諸氏である. それぞれの項目について専門家がコンパクトに記しただけに, 事柄の本質が明りょうに表わされている. この本は一般読者を対象としたものであろうが, 学問の分化の著しい今日においては, 気象を専門とする人にとっても, この本を通じて初めて知るような大へん有益な内容を含んでいる. なお巻末に内外の研究者百余人の小伝があり, それぞれの項目の末尾と巻末に参考文献が付けられている. (倉嶋 厚)